

平成29年度事業実施

(公財) 北海道肢体不自由児者福祉連合協会

北海道における肢体不自由児者の福祉の向上に寄与することを目的に、関係機関、関係団体等の支援・協力を得て各種事業を実施しました。その主なものは次のとおりである。

1 理事会、評議員会、会長・副会長会議の開催

団体運営の適切円滑化を図るため、理事会4回、評議員会2回、会長・副会長会議を適宜開催しました。

2 主な事業の実施

(1) 療育事業

ア) 作品募集と表彰

第65回の手足の不自由な子どもを育てる運動の一環として、手足の不自由な児童生徒の作品(作文・詩、図画、書道、手芸工作)及び手足の不自由な友に贈る友情の作品(作文・詩、図画)を道内各小中学校から広く募集しました。応募学校は17校、作品数455点でした。優秀作品58点は、平成30年2月5日~7日まで道庁1階道政広報コーナーに展示しました。また受賞者の表彰は当該学校において、2月末から3月上旬にかけて、当協会役員等が出向き賞状等を伝達しました。

イ) 絵はがき等の募金

日本肢体不自由児協会主催による「第65回手足の不自由な子どもを育てる運動」の一環として募金活動を行いました。募金総額は1,616,353円となりました。(昨年1,925,778円)

ウ) 奨学金の交付

当協会に設置されている岩田・アメフト育英基金奨学生を募集しました。応募校14校から22名の申請があり、平成29年12月12日に審査員12名により審査の結果、13名を選考しました。

(2) レクリエーション活動の振興

肢体不自由児者の社会自立と社会参加の促進などをねらいとして、当協会並びに各父母の会共催して事業を実施しました。参加者等は下記の通りです。

父母の会23(延べ39回) 肢体不自由児者492名 家族等1,479名 合計1,971名

(3) 療育キャンプ等研修事業

障がい児者の地域生活における自立支援のため、肢体不自由児者とその家族を対象に事業を実施しました。

ア) 肢体不自由児(者)療育キャンプ

在宅生活者が日常生活における適応能力や社会活動等に参加する能力を養う。そのために、原則として、宿泊し、ゆとりのある時間の中で、医師の診察やPT等から機能訓練を受ける機会を設けました。

特に本事業には、道立子ども総合医療・療育センター、道立旭川肢体不自由児総合療育センターをはじめ各地域療育センター、各関係機関・養護学校、諸団体等の協力をいただき実施しました。参加者等は下記の通りです。

父母の会14 肢体不自由児者213名 家族等623名 合計836名

イ) 学生等ボランティア・ホームヘルパーの派遣及び研修会の開催

在宅の肢体不自由児者を対象に、校外活動等を支援し、身辺自立に寄与することをねらいとして、当協会に登録(学生等)されているボランティア・ホームヘルパーを派遣しました。

(旭川、室蘭地区の父母の会単位)

また、新人ボランティア研修会は6月3日、4日、深川市で開催し、16名が参加しました。

派遣ボランティア130名(旭川、室蘭父母の会)

(4) 地域活動事業

ア) 第15回全道肢体不自由児者研究大会を開催しました。

期 日 平成29年9月30日(土)

場 所 札幌市 かでる2・7

参加者 父母の会会員、関係機関、諸団体等81名が参加しました。

イ) 第50回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会への参加

期 日 平成29年9月8日(金)～9日(土)

場 所 京都市

参加者 全国父母の会会員、関係機関、諸団体等800名が参加しました。

ウ) 全肢連北海道ブロック地域指導者養成研修会の開催

地域における父母の会活動の活性化と、併せて指導者の育成を図るため、全国肢体不自由児者父母の会連合会と共催で北海道ブロック研修会を開催しました。

期 日 平成29年7月20日(木)～21日(金)の2日間

場 所 道民活動振興センター かでる2・7 730会議室

参加者 全道父母の会会員16名が参加しました。

エ) 父母の会会長会議(研修会)の開催

各父母の会が抱える課題をテーマに研修会等を開催しました。

第1回・平成29年5月18日(木)、16父母の会、22名が参加しました。

第2回・平成29年11月17日(金)、16父母の会、17名が参加しました。

オ) 周年記念事業はありませんでした。全肢連全国大会参加父母の会は6父母の会が参加しました。

(5) 啓発事業

ア) 第65回「手足の不自由な子どもを育てる運動」を周知し浸透を図るため、各関係機関、

団体、報道機関等へ支援と協力を要請しました。(運動期間は平成29年6月27日(火)～平成30年3月10日(土))

イ) 会報の発行

当協会の事業内容及び父母の会の活動等を紹介し、肢体不自由児者に対する理解、啓発をねらいとして、会報「道肢連協」を6回発行しました。

ウ) ホームページによる当協会の事業等を発信、肢体不自由児者への理解・啓発に努めました。

(6) 通園施設等職員の研修事業

障がいの重度・重複化に伴い、肢体不自由児通園施設職員等の障がい児療育における知識及び技能の向上を図ることを目的として、北海道立子ども総合医療・療育センターの協力を得て研修会を開催しました。参加者は道内各地より25名でした。

期 日 平成29年12月9日(土)

場 所 北海道立子ども総合医療・療育センター

参加者 道内発達支援センター、施設等の職員を対象

(7) 悩み相談

障がい児者の地域生活における悩み等の相談件数は、3件でした。

3 その他

(1) 組織の拡充強化と自主財源の確保

会員の高齢化が進む中、各父母の会では様々な取り組みがなされています。とりわけ、特別支援学校との連携や事業の工夫に取り組むことを支援しました。

また、当協会の組織の拡充強化を図るため、会員及び協賛会員〔普・賛助・特別〕の拡大に努めました。

さらに、清涼飲料水〔自動販売機〕の設置拡大並びに「愛の絵はがき・友情の絵はがき・ゆーむとあーむのクリアファイル」等の募金活動に努め、自主財源の確保に努めました。

(2) 第15回全道肢体不自由児者研究大会や研修会の充実に取り組みました。